

△幼兒の訓練

安井哲子氏

私が初めて英國に参りまして、彼地の學生と共に寄宿舎生活を致しました折に最深く感じた事は彼等の自治的精神が能く發達して居る事でありました。其後校長が生徒を指導せらるゝ方法を觀察したり、或は又自分自身が校長と共に諸國へ旅行をした場合に、折に觸れ時に應じて指導を受けた經驗から、訓練といふ事に非常に興味を有ち、其方法に注意を拂ふやうになりました。かくて彼地に滞在中教育ある母親が如何にして其兒童を訓練するか、又高等女學校程度の善良な學校で教師が如何にして其生徒を指導するかを研究するに及んで其當時自分自身が吾國の學校で受けた訓練法と大なる差違があるのに氣が付く様になりました。かゝる經驗は、私をして、眞の訓練は自主の人を造るにあるのであるといふ事を深く信せしめたの

であります。然るに近頃モンテッソーリに關する教育書を研究しまして、益此自信を堅くするに至つたのであります。

訓練の目的

訓練の目的は一言にて申せば、自己を支配し得る人、即ち獨立自治の人を造るのであります。故に其目的は訓練を受くる兒童の一生に渡つた遠い所にあるので單に幼稚園とか小學校とか言ふやうな限られた場處に於て、限られた時間に收むる一時的の効果を目的とせぬのであります。吾々は自分が曾て如何なる訓練を受けたかを追想して見ますと、之れに依つて自分を支配する力を充分に養はれたやうに思はれません。即ち先生に依頼し、其命令に服従し、校則を守らんと努めた事は、學生時代の生活には安全と利益とを與へたに相違ありませんけれども、獨立的自治的の生活をなすべき基礎とはなつて居らぬのであります。

モンテッソーリの云ふやうに、訓練は兒童の自由

を基礎として行はねばならぬものと信じます。勿論幼稚園の幼児と小學校の兒童と中等學校の生徒とに對しては、同じく彼等の自由を尊重するとして、心身發達の相違上其取扱ひに差違のあることを免れません。併しながら自由を無視した教育は、幼稚園の幼児と中等學校の生徒との取扱ひに大なる差違がなく、従つて青年期に達しても自由に對する眞の愉快と、之れに基づける眞の獨立と、自己に對する責任とを眞に意識することが出來ぬのであります。換言すれば、かゝる種類の教育は、生徒をして自主の人となす力を有たぬといふことになるのであります。

自由の眞意を了解する困難

自分自身が能く自由の眞意を解し、之れを愛する者でなければ、他人の自由を尊重することが出來ません。殊に吾國の女子は、從來自治的教育を受けぬ者が多く、従つて自己の人格を重ずるとか精神的の獨立を喜ぶとかいふやうな經驗を得て

居りませんので、幼児の自由尊重といふやうなことを申すと、只子供を放置するのであるといふやうに誤解する危険があります。曾て或方のお話に、モンテッソーリ主義の訓練法を講習會で聞いた結果、某幼稚園の園長は其保姆が兒童に不親切になつて來たと歎いて居らるると語られました。眞に兒童本位の教育を施さうと思ふならば、先自身に兒童を觀察して、兒童といふ者は如何なる者であるかを研究することが必要であります。そして兒童を正しく觀察するには、心から彼等を愛敬せねばならぬのみならず、其活動に對して、充分なる研究的興味を有つて居らねばならぬと思ひます。そこで若し其觀察者が一般人類に對して自然の愛情と敬意とを有つて居るならば、兒童の自由尊重を誤解するやうなことなく、又研究的興味を有つて兒童を觀察するならば、自然に彼等の自發活動を尊敬するやうになるのであります。

親切の取扱と不親切の取扱

前申した園長さんのお歎きのやうに、自由主義の訓練は果して保母をして兒童を不親切に取扱はしむる恐れがあるのでありませうか。其れは親切といふ意味を園長さんが誤解されて居るか、或は又保母が自由といふ意味を誤解されて居るかどうかでありませう。親切な取扱とは兒童自然の傾向を充分觀察して、彼等の利益になるやうに思慮ある取扱をすることでありませう。故に自分で靴の紐が結べる子供に之れを結んでやつたり、自分でお湯の注げる子供に之れを注いでやつたり、或は自分で起きられる子供を起こしてやつたりすること、決して親切ではありません。之れは兒童を知らぬ無學な女中や、子供に溺愛して居る祖母さんなどの爲ることでありませう。兒童に出来る事を自らさせるには、之れをしてやるよりも餘程多くの忍耐を要します。併しながら兒童が若し母親からも保母からも、又其召使からも、自分に出来る事は自分でするといふ訓練を與へられるならば、之

れが其兒童の一生を通じての習慣となるのみならず、之れに依つて獨立の精神が養はるのであります。訓練の深い意味は此處に存するのであると思ひます。然るに親や保母が自分の便宜上兒童自身に爲し得る事を爲し與へるときには、兒童には却つて不親切な取扱となるのであります。

兒童が自分の力を自由に用ひた結果として得る満足は實に尊い感であります。モンテッソーリは兒童を充分に了解し得ざる教師が徒らに兒童に世話をやいて親切なる行爲であるかのやうに誤解する面白い實例を擧げました。

或日モンテッソーリの『兒童の家』で多くの子供が集つて水に玩具を浮かべて遊んで居ました。其時極幼稚な一人の兒童があつて、自分も亦他の子供と共に其玩具を見たいのであるけれども、力が弱くて其大勢の子供を押し分けて前に進むことが出来ませんでした、困つた顔をして周圍を見て居ましたが、其處に一つの椅子が在るのを見出だ

して、之れを持つて來て其上に攀じ上つて其れを見やうとしました。其時の子供の顔！ 何ともいへぬ輝きに充ちて居りました。丁度其時一教師が之れを見て、『ア、見たいのか、ソラソラ』といつて其子供を抱いて見せてやりました。其時の子供の表情！ 今までの輝は忽ち消えて無力のやうな顔付に變りました。

之れは實に面白い實驗談であると思ひます。初めに其幼兒が見たいといふ希望を達し得ず、如何にしてか其障礙に打勝たんと苦心し、終に之れに打勝つべき手段を見出して、今や其希望を満足させんとする瞬間に表はれた輝は、實に彼の快感の表現であります。若し彼が之れを自由に經驗し得たならば、彼は之れに依つて自己發達を爲し得たであります。然るに是等の利益は思慮なき教師に依つて破壊せられ、終に彼をして自分は常に他人の力に依らざれば何事も爲し能はざる者であるといふ無力の感を經驗せしめられたのでありま

す。恰も富貴の家に育つた子供が、自分の力で出来る事を乳母や女中がチャホヤいつて、爲してくるために、無力の者となるのと同様であります。

獨立と自由

獨立せざる者に自由なし、故に先づ兒童の自由活動を通じて獨立に到達するやうに彼等を導かねばならぬとは、モツテッソリーの意見であります。然るに又兒童は本性獨立的自由の行動を喜ぶ傾を有つて居るといふことは種々の實例に徴して明かであります。

私共の幼稚園の最幼稚な組に華族のお子様があります。或日お歸りの準備として外套を着ましたところが、咽喉の邊にあるフックが自分で懸りません。然るに此幼兒は非常に意志が強い子供でありますので、先生の助けを藉らずに是非自分でやりとほさうと試みました。其中に他の子供達は皆歸る準備が出來て、靜に待つて居りますのに、尙此子供だけは一生懸命になつてフックを懸けて

居ました。所が先生も氣の長い思慮のある人でありましたから、面白さうに之れを観察して居ましたので、他の子供達も亦熱心に之れを観て居ました。然るに其子供は幾度も試みてどうしても嵌まらぬので、其周圍を見廻はして居りましたが、やがて三角戸棚を見出して其處に行き、ガラスの前に立つてやつとフツクを懸けました。得意の色は忽ち彼の顔に表はれ、友達顔には満足と、先生の顔には微笑とが表はれました。

又同じ兒童がある土曜日に其姉を待ち合はせるために、一人幼稚園に残つてお辨當を食べました。丁度保育室が掃除で差支へた爲めに、職員室の大卓子の前に座つて食事をする事になりました。保姆は土瓶を持つて来て其卓上に置いたまま忙しく立ち去りました。私は恰も統計表を製つて居る最中でありましたが、仕事をしつゝ黙つて其様子を觀察して居りました。彼は先づ先生の椅子を持つて来て私の傍に置き、之れに着席致しました。

それから自分でお辨當を開き、風呂敷を疊んでやがて食し初めました。食事がすむと彼はこぼさぬやうにお湯を注ぎ、之れを飲んでから再茶碗にお湯を注いで、食後の嗽ひをするためにやがて室を出て行きました。再び室に戻つて来た彼は、お辨當を片付け、椅子を舊の位置に戻しました、此間の彼の動作は極めて落付いたものでありました。而も彼は非常に活動力に富んだ、時としては寧ろ落付かぬ子供でありました。私はかかる實驗に依つて、幼兒が徒らに成人に世話をやかれるのを厭ひ、自分で何事でも爲すことを好む傾向を有つて居るといふことを學びました。

然るに一般中流以上の家庭では、此力を無視して何事でも爲し與へるために、其愛子を不知不識無力無能にしてしまふのであります。托兒所的の幼稚園では、其家庭の狀態から幼兒を獨立的に育てようとし、何事でも自分で出来ることは自分でするやうに導いて居りますが、中流以上の兒童を

收容する幼稚園では家庭との關係上加かる傾が少
ないやうであります。併しながら兒童の自發活動
を有益に導き、成るべく獨立自主の人を作らうと
いふことは、階級に依つて違ふものではありませ
ん。寧ろ家庭に於てかかる訓練を缺いて居る中流
以上の兒童こそ、特に此方向に導かれねばならぬ
のでありませう。何事でも婢僕の手を藉らねば出
來ぬといふ人は、獨立した者ではなくて、婢僕に
依頼する者であります。自分は無力でないから他
人の世話になることは望まぬといふ精神は、人々
が自己の自由を意識する前に必ず有たねばならぬ
もので、此精神は未來人類の威嚴の根本とならね
ばならぬといふモンテッソーリの意見に私は賛成
を表するのであります。

〔『日本之小學教師』第十六卷第百八十八號より〕

△エー・エル・ハウ女史

歡迎會

(神戸某女史報)

昨年來其の母國なる米國に歸られ父母友人を訪
ひ諸方面の視察を遂げ殊にモンテッソー女史保
育法の實際をも親しく參觀し研究して今回歸朝せ
られたる頌榮幼稚園長ミス、エー、エル、ハウの歡
迎會は九月十八日午後二時より神戸幼稚園遊嬉室
に開かれました。我國保育界に大いなる効績ある
同女史を歡迎せんと神戸市内保育者は勿論小學校
職員及遠く明石御影大阪の保姆諸氏多數參會があ
り、來會者約百餘名滿堂立錫の餘地もない盛會で
ありました。

望月神戸幼稚園長の開會の辭につき小磯神戸市
保育會長の次の如き挨拶がありました。

『皆様も御承知であります。ハウ先生が米國